

書評

エネルギー工学入門

著者：宮本健郎

発行：培風館

定価：2,266円

評者：吉田邦夫（東京大学工学系研究科教授）

類似のタイトルの成書は数多くあるが、本書の特色は副題に太陽・原子力・核融合とあるように、総頁180頁からなる本の約半分を原子力エネルギーおよび核融合エネルギーにあてていることにある。エネルギーの世界で原子力の役割は極めて大きいにもかかわらず、原子力発電や核燃料サイクルといった単一項目を取り

上げた専門書はあっても、エネルギー技術全般の中で原子力を大きく取り上げた本は恐らく初めてと云ってよいのではないと思われる。これはエネルギー工学の専門家が熱工学・電気化学・化学工学の分野によって殆んど占められていることに1つの理由がある。さらに、もう1つ反原子力ムードが支配する中で、何となく参考書に書き難いという気持があるからではないかと思われる。

原子力を大きく取り上げたため、石油・天然ガス・石炭に関する記述は殆んど無く、石炭ガス化や液化は全く触れられていない。しかし、この分野の解説や成書はいくらでも入手できるので困ることはない。

記述は簡潔で明解、エネルギー工学を勉学するのに適した教科書である。



Creative Chemical Engineering Course



全15巻

化学工学会 監修

大学・高専の化学系学生・研究者，企業関係者はもとより，サイエンスに関心を持つ一般読者にも興味をもてるよう工夫した画期的なシリーズ

8. エネルギー・資源リサイクル

亀山秀雄・小島紀徳共著

A5・160頁 定価1648円

化石燃料の浪費の上に成り立っている今の世の中で、本当に地球にやさしいリサイクルとは何かをもう一度問直し、その具体的な方策を提示する。その中で、化学工学がいかに有効な手段を提供できるかを平易に解く。

10. 地球環境問題に挑戦する

黒田千秋・宝田恭之共編

A5・160頁 定価1648円

今や自分自身の事として考えなければならない、「地球の姿」「微生物の営み」「二酸化炭素問題」「地球を守るための意識」という問題に焦点を合わせて、化学工学が如何に貢献できるかを、平易かつ端的にまとめた名著。

9. 私たちのエネルギー

＝現在と未来

内山洋司著 A5・176頁 定価1648円

エネルギー多消費社会の抱えるさまざまな問題を精細なデータをもとに解明し、エネルギー技術の果たすべき役割と可能性を述べ、持続可能な発展のあり方を示唆する。21世紀のエネルギー社会を展望する最良の情報源。

11. 廃棄物工学

＝リサイクル社会を創るために

久保田宏・松田 智共著 A5・160頁 定価1648円

廃棄物のクリーンな処理と再資源化が叫ばれている中、それを阻んでいる要因を明確にし、その解決のための技術の可能性とその限界についてやさしく解説。リサイクル社会創造のための問題を明らかにする。

〒102 東京都千代田区九段南 4-3-12

培風館

TEL (03) 3262-5256 FAX (03) 3262-5276